

## かわじの さくら

きょうは、とてもいいてんき。りゅうくんとおかあさんは、だいすきなさくらをみにやってきました。

「おかあさん、はやくはやく。」

「りゅうくん、いそぐところぶわよ。」

「わあ、おかあさんみて。

ゆきみたいだよ。」

「ほんと、きれいね。」

(りゅうくん)

「あれ、なんだろう？」

(りゅうくん、こっちだよ)

「だれか、ぼくのことをよんでるよ。」

りゅうくんは、こえのするほうへいつてみました。

するとそこには、おおきなおおきなさくらのきがありました。

「きれいだなあ。」

りゅうくんが、じっとみつめているとひかりにつつまれたさくらのきが、はなしはじめました。

「りゅうくん、こんにちは。」

さくらのきが、とつぜんはなしはじめたのでおどろきましたが、

「ぼくのことよんだ？」

「よんだよ。」

「ぼくのことしってるの？」

「しってるよ、りゅうくんの、げんきなかおをみるのが、だいすきなんだよ。」

りゅうくんはちょっぴりてれくさくなりましたが、なんだかうれしくなって



きました。

「ねえ、ずっとここにいるの？」

さくらのきは、にっこりとほほえみました。

「そうだよ、りゅうくんのおじいさんの、そのまたおじいさんの……ずっとずっとむかし、150ねんくらいになるかなあ。」

「えーっ、150ねん？」

「そうだよ。しろにまだ、とのさまがすんでいたころだよ。」

「おとのさまって、ほんとうにいたの？」

「むかしは、いたんだよ。たしか、えどじだいといったかなあ。りゅうくんのすむならにやってきた、かわじとしあきらというひとが、ここにうえてくれたんだよ。」

「そのころのならばね、てらのへいがこわれかけたり、ならこうえんのあちこちにくさはえたりして、とてもあれていたんだよ。」

「ふうん。そうなんだあ。」

「そのようすをみたかわじさんは、とてもかなしくなって…『そうだ、ならのまちをきれいにしよう。みんなが、だいすきなならにしよう。』と、おもったんだよ。」

「それで、どうしたの？」

「まいにちくさをひいたり、こわれているところをなおしたりしたんだよ。」

「ひとりでしたの？」

「ちがうよ。さいしょ、まちのひとは『なにをしてるんだらう。』と、みてるだけだったけど、いっしょうけんめいにまちをきれいにしようとする、かわじさんのすがたをみて

『わたしもてつだうよ。いっしょに、ならのまちをきれいにしよう。』

と、みんなでちからをあわせ、まちをきれいにするようになっていったんだ。」

「へえ、みんなでしたのかあ。すごいねえ。」

「りゅうくんは、ごじゅうのとうがあるこうふくじや、ならこうえんをしっ

てるかな？」

「うん、しってるよ。」

「ながいあいだ、ならにすむひとたちみんなでももってきた、たいせつなところのひとつなんだよ。そしてならには、ほかにもたいせつにまもってきたところが、たくさんあるんだよ。」

「みんなでももってきたところがあるなんて、ぼくしらなかったよ。ならって、すてきなところなんだね。」

「ぼく、もっとならのことをしりたい。おはなしきかせて。」

「それじゃあ、かわじさんがしたことを、もうひとつおはなししようかな。それはね、たくさんさくらのきをうえたんだよ。」

「たくさんて、どのくらい？」

「すうせんぼんっていわれているよ。」

「えーっ、そんなにうえたの。」

「そうなんだ。いろいろなところに、うえたんだよ。」

「わたしもそのなかのひとつなんだよ。」

「たくさんひとがだいじにしてくれたおかげで、150ねんたったいまも、まいとしたくさんのはなをさかせることができるんだよ。」

「みんながずうっとだいじにするって、すごいんだね。」

「そうだね。わたしのはなびら1まい1まいには、だいじにおもってくれるみんなのきもちがいっぱい。わたしは、まんかいのさくらはなをみて、みんながすこしでも、しあわせなきもちになってくれたらいいなとおもっているんだよ。」

「ふうん。ぼくも、さくらのきをみるの、だいすきなんだよ。だってね、みてるとなんだかうれしくなってくるの。」

りゅうくんはにっこりとほほえみ、じっとさくらをみつめました。

「そうかあ、うれしいな。」

さくらのきも、りゅうくんをみつめ、ほほえみかえしました。

「りゅうくん。」

「あっ、おかあさんだ。おかあさん、ぼくここにいるよ。」

と、おおきくてをふりました。

「おかあさん、ぼくね、いまさくらのきとおはなししてたの。ながいあいだ、  
ならのまちやさくらのきを、ならのひとみんなでたいせつにまもってきた  
んだって。」

「そうだったの。」

おかあさんは、りゅうくとさくらのきをみてほほえみました。

そのときです。ヒューッ、ホワン。

ふたりのあいだをやさしいかぜが、とおりにぬけた  
かとおもうと、1まいのはなびらがりゅうくんの  
てのひらのうえでとまりました。

「わあ。」

りゅうくんのかおは、ぱあっとかがやきました。

「すごい、はなびらだ。」

とつぜんのできごとによりゅうくんは、おおよろこ  
びです。

「すてきなプレゼント。りゅうくんよかったね。」

「うん。」

うれしそうによりゅうくんは、はなびらをみつめ  
ほほえみました。

「おかあさん、またあしたもこようね。」

「そうね。」

「またあしたねえ。」

りゅうくんはうれしそうに、さくらのきにみえるようによりゅうくんは、  
おおきくてをふりました。

